

品名	プロパン	国連番号	1075
----	------	------	------

該当法規・危険有害性

消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法		火薬類取締法			道 路 法								
種 別						品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一般高 圧ガス	液化石 油ガス	火 薬	爆 薬	火 工 品	施行令第19 条の12、13 に該当							
第1 類	第2 類	第3 類	第4 類	第5 類	第6 類												指 定 可 燃 物					
										●					●							
危 険 性			有 害 性						環 境 汚 染 性		性 状											
特 性			禁水性			爆発性			可燃性			有 害 ガ ス 発 生			目・皮膚に触 れると危険		河川への 流入注意		固 体	液 体	気 体	水 溶 性
												常 温	加 熱 時 火 災 時	水 に 接 触								
											●							●				

事故発生時の応急措置

- ① 車を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害のないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)
- ② 事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、人を風上に避難させる。
- ③ 火気厳禁。エンジンの熱や火花は着火源になる。
- ④ 容器を覆っているシート等を取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。
- ⑤ 風上より、消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等の災害拡大防止措置を行う。
- ⑥ 下記事項を荷主会社、運送会社、地域防災組織等の関係機関へも連絡する。

緊急通報

119 (消防署) 110 (警察署) 高速道路の非常電話

[緊急通報例]

- ① いつ ○○時 ○○分頃
- ② どこで ○○市○地区(国、県、市) 道○○号線○○付近で
- ③ なにが 「プロパン(高圧ガス、可燃性)」が
- ④ どうした 漏れています。漏れて火災になっています。
- ⑤ ケガ人は ケガ人がいます(救急車をお願いします)。ケガ人はいません。
- ⑥ 私の名前は ○○運送会社 ○○です。

緊急連絡

(特に、休日・夜間に確実に連絡がとれる部署の電話番号を記入する)

荷主会社		運送会社	
住 所		住 所	
電 話	平日・昼間 休日・夜間	電 話	平日・昼間 休日・夜間

品名	プロパン	国連番号	1075
災害拡大防止措置			
特記事項	処理剤		
<p>① プロパンは空気より重く、かつ、低い濃度でも着火するため、ガス漏えい時は必ず容器を直立して漏えい量を極力少なくするとともに、ガスの滞留防止と近くの火気からの引火に注意する。</p> <p>② 容器内圧力 : 20℃で0.7 MPa (7 kg/cm²) [ゲージ圧力] 40℃で1.3 MPa (13 kg/cm²) [ゲージ圧力]</p> <p>爆発範囲 : 2.2～9.5% (空気中)</p> <p>相対密度 (ガス比重) : 1.5 (空気を1とする。空気より重い)</p> <p>沸点 : -42℃ (at0.1013 MPa=大気圧)</p> <p>液密度 : 0.5 kg/L (20℃、飽和)</p> <p>色・臭い : 無色・着臭 (一部工業用は無臭)</p> <p>容器の塗色 : ねずみ色が多い (法律では、黒・赤・緑・白・黄・かつ色以外)</p>			
漏えいしたとき			
<p>① 液体が気体になれば約270倍になる。通風を良くして、ガスが滞留しないようにする。</p> <p>② 防災工具を用い、風上より容器バルブ又は漏えいしている部分を静かに増し締めし、漏れを止める。ガス取出口から漏えいしているときは、パッキン及び口金キャップを取り付ける。</p> <p>③ 漏れが止まらないときは、着火源を避け、通風の良好な安全な場所で大気に拡散させる。</p>			
周辺火災のとき			
<p>① 容器を安全な場所へ移動する。</p> <p>② 移動することが不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。</p>			
引火・発火したとき			
<p>① 近くに着火源がなくガスが滞留しない場所で、風上より消火し、漏えい防止措置を施す。</p> <p>② 容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周囲の容器に噴霧散水した後、周囲の容器を安全な場所に移動する。</p> <p>③ 周辺及び漏えい状況から判断して、消火するとかえって危険性が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周囲に噴霧散水しながら、容器内のガスがなくなるまで燃焼させる。</p>			
救急措置			
<p>① 火傷の場合はきれいな水や氷で患部を冷やす。ショック状態の場合は頭を低くして寝かせ、暖める。</p> <p>② 凍傷の場合は、凍傷の部分をこすらず、患部を温湯で徐々に温めて常温に戻し、その後ガーゼなどで保護して医師の手当を受ける。</p> <p>③ 多量に吸入した場合は、直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気の場所に移す。呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。呼吸困難なときは酸素吸入を行う。</p> <p>④ 患者が発生した場合は、できるだけ早く医師の手当を受ける。</p>			

